

渡辺文夫著「異文化と関わる心理学 グローバリゼーションの時代を生きるために」

サイエンス社 2002年3月10日刊を読む

異文化に出会うときに問われる資質とその育成法 - 統合的関係調整能力育成のための教育実習法

1. 現象学的異文化教育法 - エポケー実習

(1) エポケー (Epoche) 実習は、「『関係』が変わることによって認識や行動が変わる」ことを経験的に学習する方法です。エポケーというのは、現象学の中核にある認識のための意識操作の方法です。通常は判断停止あるいは判断中止と訳されますが、ここでは判断留保と訳すことにします。この意識操作の方法は、自らが認識しているものや事象が自らと離れて客観的に存在していると考えず、その認識を絶えず括弧のなかに入れ、より慎重に知ろうとする認識の方法です。認識した物事や事象が、絶えず新たな姿で認識されるようになります。

(2) エポケー実習は、次のような手順で行われます。

2. エポケー実習の手順

(1) 第一ステップ - 絵を描いての実習

2人1組 AB のペアを作る。

「自分にとって大切なこと、もの、ひと」を絵に描く。

A は、B に自分の絵を説明する。

B は、A の説明を聞き、「あなたは、～を大切に感じているのでしょうか？(上あがりの口調で)」と自分の理解を断定せずに、共感的に慎重に「確かめる」。この時、質問や自分の考え、思い、判断、意見などを言わない(いったん意識の脇に置く)。[ここでの一連の意識の作業がエポケーになる。]

A は、B の「確かめ」を聞き、さらに話を続ける。

B は、さらにその A の話を「確かめる」。

話が収束するまでこれを繰り返す。

講師は、A に B から「確かめ」を受けてどのように感じたかを発言させ、その発言に対してエポケーをし「確かめる」。

A と B は、役割を交替する。

(2) 第二ステップ - 話題を設定しての実習

話題(たとえば「海外派遣の自分にとっての意味」など)を提示する。

A は、B に話題についての自分の考え、気持ち、思いを述べる。

B は、A の説明を聞き、「あなたは、～を意味があると感じているのでしょうか？」と自分の理解を断定せずに、共感的に慎重に「確かめる」。この時、質問や自分の考え、思い、判断、意見などを言わない(いったん意識の脇に置く)。

A は、B の「確かめ」を聞き、さらに話を続ける。

B は、さらにその A の話を「確かめる」。

話が収束するまでこれを繰り返す。

講師は、A に B から「確かめ」を受けてどのように感じたかを発言させ、その発言に対してエポケーをし「確かめる」。

A と B は、役割を交替する。

[コメント]

エポケー実習の具体的方法。

- 2010年6月3日 林明夫記 -